

- ・ はじめに
- 機械学習による走行試験分析
- 高精度シミュレーションモデル開発
- 台上試験による検証
- 台上シミュレーション
- メカニズム解析
- まとめ



#### 研究の背景

- 車体補強が運転者の感覚に影響を及ぼす現象は経験的に知られている。
- 車体補強が計測データに与える影響は微小なため、その影響を工学的に厳密に把握すること、その要因を解明することが求められている。





## 研究の目的

- 官能評価にて有意差を感じられる車体補強仕様車を作製すること
- 車体補強差を表す物理量を実験データから抽出すること
- 車体補強による操縦安定性への影響メカニズムを調べること

#### 車体補強仕様車の作製



- 2. Rigid仕様
- 3. Damper仕様

#### 機械学習による仕様判別

#### メカニズム解析







#### 研究のアプローチ



- ・ はじめに
- 機械学習による走行試験分析
- 高精度シミュレーションモデル開発
- 台上試験による検証
- 台上シミュレーション
- メカニズム解析
- まとめ

走行試験のアプローチ



#### 物理量の抽出例

走行時に計測した時刻歴データを比較検討し特徴量を抽出。 



スラローム操舵

8

10

45

50

#### フィッシャー判別法

● フィッシャー判別法(FDA)は、対象の仕様群間差を最大にする固有ベクトルを推定することができます。

群内散布行列

$$S_{w} = \sum_{k=1}^{K} \sum_{n \in C_{k}} (y_{n} - \mu_{k})(y_{n} - \mu_{k})^{t}$$

群間散布行列

$$\boldsymbol{S}_b = \sum_{k=1}^{K} N_k (\mu_k - \mu) (\mu_k - \mu)^t$$

FDA規準Jが大きくなる射影行列T
$$J(T) = tr\left\{\frac{(T^{t}S_{b}T)}{(T^{t}S_{w}T)}\right\}$$



$$S_b / S_w$$
 が最大となる固有ベクトル $T_{FDA}$ 

#### 機械学習による走行試験分析

#### 統計分析例:スラローム操舵試験

- フィッシャー判別法(FDA)結果より、対象の仕様群間差を最大にするパラメータ を推定し着目すべきパラメータを抽出することが可能
- 抽出できたパラメータ
  - ▶ 操舵角vs操舵トルクの面積
  - ▶ バネ下振動レベル
  - ▶ 操舵角vs横加速度の立上り傾き









#### 走行試験結果まとめ

- 走行データを統計的に分析した結果、車体補強によって以下の結果を得ることが できた。
  - 1. Rigid仕様でフロントバネ下振動減少
  - 2. Rigid仕様で操舵力ヒステリシス幅増加
  - 3. Damper仕様で切り始めの横加速度増加
  - 4. 静的かつグローバルな車体変形の差異は微小



- ・ はじめに
- 機械学習による走行試験分析
- ・ 高精度シミュレーションモデル開発
- 台上試験による検証
- 台上シミュレーション
- メカニズム解析
- まとめ



#### ● 実験で計測した基本特性を基に高精度なCAEモデルを構築します。



#### 高精度シミュレーションモデル開発

#### 車両シミュレーションモデル



Front suspension

Front stabilizer Power unit Rear suspension



#### 走行試験結果との比較

- 走行試験と同等の走行シミュレーションを実施
- 車速
  - ➢ 100km/h
- 操舵角
  - > テストデータ
- EPS
  - > On
- タイヤ
  - Magic Fomuler
- 路面入力
  - ▶ ラフネス路面





走行試験結果との比較

● 走行試験と同等の走行シミュレーションを実施



- ・ はじめに
- 機械学習による走行試験分析
- 高精度シミュレーションモデル開発
- 台上試験による検証
- 台上シミュレーション
- メカニズム解析
- まとめ

#### 台上試験

- メカニズム解明のため走行試験結果を台上試験で表現したい。
  - ▶ テスト仕様
    - ✓ Normal仕様
    - ✓ Rigid仕様
  - > 実験状態
    - ✓ ボールターンテーブル上に前輪設置
  - > 実験入力条件
    - ✓ 操舵角 : **±**20deg
    - ✓ バネ下を電磁シェーカ加振
  - ▶ 評価物理量
    - ✓ バネ下振動上下のRMS値 (10~30Hz)
    - ✓ 操舵ヒステリシス面積 (±2deg)









#### Ball Turn Table

Shaker





#### バネ下振動有無の影響

● バネ下の加振力増加に比例して操舵力ヒステリシスが減少



### 操舵カヒステリシスの仕様比較

 バネ下を加振するとオンセンタ付近の操舵カヒステリシスの仕 様間差が増加



#### 走行試験と台上試験の比較

### ● 走行テストと台上試験の着目物理量変化が対応が取れた。



- ・ はじめに
- 機械学習による走行試験分析
- 高精度シミュレーションモデル開発
- 台上試験による検証
- 台上シミュレーション
- メカニズム解析
- まとめ

#### 台上シミュレーション

#### ● 車両モデルは台上試験結果の傾向を良い精度で表現

操舵角 6000.0 試験データ 4000.0  $\succ$ 2000.0 バネ下加振 0.0 実験データ -2000.0 -4000.0 -6000.0 -30.0 -20.0 -10.0 0.0 10.0 20.0 30.0 Angle (deg)





## 台上シミュレーション: Normal vs Rigid

#### ● 車両モデルは微小だが仕様違いでの台上試験結果の傾向を表現



## 台上試験と台上シミュレーションの比較

#### ● 台上試験とシミュレーションの着目物理量変化の対応が取れた。

台上シミュレーション



- ・ はじめに
- 機械学習による走行試験分析
- 高精度シミュレーションモデル開発
- 台上試験による検証
- 台上シミュレーション
- メカニズム解析
- まとめ

## 研究のアプローチ



#### メカニズム解析

### 台上試験時の車体弾性変形差:Normal vs Rigid

#### ● バネ下振動低下の要因は車体弾性変形が収まったためと推定。



メカニズム解析 車体補強仕様差の要因:バネ下振動とボールジョイント摩擦

● 操舵ヒステリシス増加はボールジョイント摩擦力変化に起因



#### メカニズム解析

#### 車体補強仕様差の要因:ボールジョイント摩擦

● ボールジョイント摩擦無では実験の傾向を表現できない

バネ下振動の振幅(上下方向)



- ・ はじめに
- 機械学習による走行試験分析
- 高精度シミュレーションモデル開発
- 台上試験による検証
- 台上シミュレーション
- メカニズム解析
- まとめ

まとめ

#### ● 車体補強が操縦安定性に与える一要因を明らかにできた。

- 1. 車体変形は車体補強によって抑えられる。
- 2. 車体変形の抑制がバネ下振動低減へとつながる。
- 3. バネ下振動低減によりボールジョイントの摩擦球特性が変化し、操舵力ヒステリシス幅が増加する。
- 車体補強の影響を表現できる台上試験&フルビークルモデルを 開発した。
- バネ下振動(路面入力による)は、台上・走行試験時の操舵特 性をシミュレーションするのに重要である。



# ご清聴ありがとうございました





